

## ライフケアガーデン湘南 特定入居

症 例 概 要 利用者氏名：N様（80代 女性 要介護3）

利用期間：令和元年7月～令和元年9月現在

主疾患：アルツハイマー型認知症、便秘、右肩骨折

入居することにより、バルーン留置からバルーン抜去。トイレにて自己排尿、  
食事摂取量の向上、活動性向上と生活の質が向上し、笑顔が増えた事例

### 内 容

---

（経過）

息子さんと2人暮らしで平成30年9月頃より食欲低下、活動性の低下があり

平成30年10月に尿路感染症で入院、退院後訪問看護と往診を月2回行っていた。

ご家族の介護が十分でなく食事摂取量も落ちていたことからショートステイ利用されるも、入退院を繰り返すことや在宅での継続した生活が難しくなり入居する運びとなる。

#問題点①

入所時オムツ+パット対応、尿道バルーンを留置。声掛けに表情乏しい。長時間の離床では傾眠症状も見られた。同席やスタッフからも尿臭がとても強く、食事の際に周囲への配慮が必要。自宅では時々尿道バルーンが閉塞したり、自己抜去していた。

#問題点②

お食事中に傾眠、全量召し上がることがない。

①に対して：8月上旬、バルーン交換の為抜去し自尿が有るか確認を行う。少量の失禁が有った事から、自力排尿の可能性ありと判断。バルーン挿入せず経過観察続行となる。トイレ誘導開始。自尿確認。リハビリパンツ+パットへ変更。オムツ中止。バルーンが取れてから定時声掛け・トイレ誘導。パット内ほとんど失禁無。現在感染症などのトラブルは無し。

今後の目標としてリハビリパンツから布パンツへ変更する予定である。

②食事について：食事をワンプレート皿にて提供する。これまで別々の皿で召し上がっており、その都度ゆっくり召し上がっていたのが、1時間かからず摂取出来る様になる。継続して他、自助具を検討していく。

(まとめ)

生活面では、バルーンが抜去されたことで尿臭がすることが無くなりました。トイレ誘導が開始になりスタッフからの声掛けも増え、活動性や意欲的にも向上されたのではないだろうか。食事場面においても、ワンプレート皿の使用により傾眠されることなく毎日全量召し上がっております。午前中出来なかった、体操やレクリエーションなど積極的に参加されており、最近では同じテーブルの方と会話をされている姿を拝見することが多くなってきております。歌を歌われたり、手拍子をされたりと活気も出てきており、笑顔も多く見られるようになった為、キラキラ介護賞に推薦します。